

女川町 女川温泉ゆぼっぱ



ヒートポンプ給湯

贈呈理由

ヒートポンプ給湯システムの導入により、エネルギーの有効活用とコスト削減を実現



ゆぼっぱ全景

東日本大震災の大津波で、町民や観光客に親しまれていた温浴施設「女川温泉ゆぼっぱ」は流失した。その後、復活を求める多くの声が町内外から寄せられ、同様に流失した女川駅と合築する形で再建することとなった。2015年3月21日にJR石巻線の全線復旧とあわせ「おながわ復興まちびらき2015春」が開催され、女川駅と「女川温泉ゆぼっぱ」の竣工を祝うイベントが盛大に行われた。

同施設は、「建築のノーベル賞」と呼ばれるプリツカー賞を受賞した世界的建築家の坂茂氏が設計し、羽ばたくウミネコの白い翼をイメージしたフォルムが特徴である。地元産の木材をふんだんに用いた開放感あふれる空間で、2階の浴場と休憩所には、日本画家の千住博氏のタイルアートが飾られ、復興への

願いが込められている。

ハイブリッド給湯システム

「女川温泉ゆぼっぱ」は、ハイブリッド給湯システムを採用しており、シャワーやカラン系統に業務用ヒートポンプ給湯機を導入し、浴槽保温のボイラでバックアップしている。このことで、平日と休日の利用客数の変動にも柔軟に対応し、省エネルギーであるとともに燃料費も大幅に抑えられている。また、貯湯タンクの温水は緊急時の生活用水として利用可能で、非常災害への対応も考慮されている。このように、ヒートポンプシステムは、省エネで環境にやさしくコスト低減も図られることから、女川町は、今後も町有他施設への導入を検討している。

3階の展望デッキからは女川湾に向かうプロムナードが一望でき、新たにオープンしたテナント型商店街「シーパルピア女川」や「女川町まちなか交流館」を見渡すことができる。2016年秋には「物産センター」が開業予定であり、「女川温泉ゆぼっぱ」は女川観光玄関口の中核施設として、女川町の復興のシンボルとなっている。

女川町 女川温泉ゆぼっぱ

所在地：宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原1-10
 建築設計：(株)坂茂建築設計
 建築施工：戸田建設(株)
 蓄熱設備設計：(株)坂茂建築設計
 蓄熱設備施工：戸田建設(株)
 延床面積：899.51㎡
 竣工：2015年(新設)
 ■蓄熱設備概要
 業務用エコキュート 78kW×2台[前川製作所]
 貯湯槽：20㎡